

3月3日

健康になりますように ひな祭りを実施

川湯保育園（番場新一郎園長）は3月3日、ひな祭りを実施しました。

先生から菱餅の色の意味やひな祭りに関するお話を聞きました。

その後、園児たちは菱餅型の乗り物に乗り、お互い引っ張って遊び、ひな祭りを楽しみました。

昼食では、サラダに入っていたハムが桃の花の形になっていたり、ご飯の上にはお雛様の形をしたにんじんなどが飾られており、園児たちは「かわいい!」と言いながら笑顔で食べていました。



3月1日～31日 大相撲の錦絵師 木下大門作品展を開催

弟子屈郵便局（藤原将男局長）は、3月1日から31日まで、木下大門作品展を開催しました。

木下さんは、本町出身で大相撲の錦絵師として活躍している方で、他にも阿寒摩周国立公園指定90周年を記念し、町内のラッピングポストのイラストもデザインしました。作品展では、町出身の横綱大鵬の絵や場所ごとの力士と行司を描いた絵番付表の相撲錦絵や、大鵬の孫の王鵬の関脇昇進の祝うコーナーなどが展示されていました。

3月10日

学校と地域を繋げる 釧路管内教育実践表彰を受賞

弟子屈中学校（小林一博校長）が令和6年度釧路管内教育実践表彰を受賞し、3月10日、同校で表彰式が行われました。

同校は、地域と学校教育でむすぶ「学び舎でしかが」において、総合的な学習の時間を実施。令和6年度には、校舎内に地域と学校を結ぶ拠点「TEICHU SPACE」を設置。同組織メンバー以外にも町民や中学生が昼食を持参して参加する「イートイン弟中」の開催など100人以上が利用するなど、学校と地域を繋ぐ取り組みが評価され今回の表彰となりました。

小林校長は、「これまで地域の方々が学校教育に参加してくれたおかげ。今がゴールとは思わず、これまで以上に地域と連携していきたい。」と話していました。



3月4日 牛について学ぶ JA摩周湖青年部が授業を開催

摩周湖農業協同組合青年部（吉田雄貴部長）は3月4日、川湯保育園（番場新一郎園長）に来園し、牛についての授業を開催しました。

この授業は、毎年実施しているもので牛の赤ちゃんの体重や1頭の牛が1日に出す牛乳の量など、クイズ形式で園児たちが学ぶもので、また、この日は牛山豚彦も来園し、園児たちと触れ合うなど牛について学びながら、笑顔がたくさん授業となりました。

3月13日

美味しくな一れ 川湯保育園でうどん作りを実施

川湯保育園（番場新一郎園長）で3月13日、年長さんによるうどん作りを実施しました。

以前1月に作った際には、製麺機を使用しましたが、今回は番場園長に教

わりながら、自分たちで生地を伸ばし、うどんの太さに切ることができました。

最初は、緊張していた園児たちも一つ一つ丁寧に作業をしました。できあがったうどんを自分たちで食べた際には「もちもちで美味しい!」と笑顔が溢れていました。



永きにわたり地域防災に尽力 内閣総理大臣表彰を受賞

町消防団藤田茂団長が、内閣総理大臣を受賞し3月12日、町役場にて伝達式が行われました。

この表彰は、長年消防団活動に従事し、消防行政の発展に貢献された方の功績をたたえるものになります。藤田団長は1967年の入団以降、57年間にわたり、地域住民の安全確保に尽力されました。2009年の団長就任以降は、地方公共団体職員の入団促進など地域防災体制強化への協力を続けた功績から今回の表彰となりました。

3月12日

2月13日

警察署などと連携して 不審物対処訓練を実施

町は2月13日、道警釧路方面本部や弟子屈警察署と連携し不審物対処訓練を実施しました。

この訓練は町役場に「爆発物を置いた」という電話がかかってきたため町職員が庁舎内を巡回し、3階に不審な袋が置いてあったという想定で実施しました。同署員が現場を確認すると袋の中から機械のような音がしたため、避難指示を出し警備隊（爆発物対応専門部隊）の出動を要請。警備隊は防爆スーツを着用して、金属探知機などで袋の中身が爆発物かどうかを検査。爆発物ではないと判明し、隊員がマジックハンドで回収をしました。



訓練を見学した町職員は、警備隊指揮官による処理までの流れや解説を聞き、危機管理への意識を高め、対応方法を学びました。

2月21日

食育の一貫 わくわくWork!を開催

町地域おこし協力隊ひきだし部と町地域支えあい推進会議が企画した、さまざまな人の働くについて聴く「わくわくWork!」が2月21日、弟子屈中学校（小林一博校



長）で行われました。この企画は、昼食を通した町民の交流や中学生が仕事について考えるきっかけになればと行われたもので、中学生は給食を町民は弁当などを持参して約30人が参加しました。初開催の今回は、同校の小林校長がゲストスピーカーを務め、校長になって感じたことなどを話しました「学校は社会とは違い同年代との横の関係、先生との縦の関係しかない。生徒たちの人間性を高めるために、校内で外部の人と交流する今回のような機会はとてもいい。」と話していました。

2月25日

さらなる町のPRに向けて 町と(株)東洋が包括連携協定を締結

町は2月25日、(株)東洋（角高紀代表取締役）と地方創生の推進に関する包括連携協定を締結しました。

この協定は、同社が運営する地域限定型コミュニティサイト「TON×TON」で各自治体の価値や魅力などを発信するコンテンツ「推しまち」に町のページを新設し、大自然やアクティビティ、特産品などの魅力をPRするものになります。



徳永町長は「積極的な情報発信に努めており、今回の締結でより効果的なプロモーションができるようになった。」と話していました。

2月13日

本町に新たに誕生 令和6年度北海道指導農業士・ 農業士称号贈呈式を開催

2月13日、令和6年度北海道指導農業士・農業士称号贈呈式が札幌市で開催されました。

指導農業士および農業士とは、地域の青年農業者や新規就農を目指す方々の育成や指導に取り組む、北海道知事の認定を受けた農業者になります。



今回、吉田牧場の吉田一徳さんが指導農業士に、吉田寛子さんが農業士にそれぞれ認定され、本町の農業振興のために、新規就農希望者への技術指導や受け入れを積極的に行っていきます。

2月25日

温泉水を発電に活用 バイナリー発電設備の稼働開始

町が整備した中央源泉バイナリー発電設備が完成し、その報道発表が2月25日、現地で行われました。

同設備は、2024年8月に着工し、定格出力30kwの発電機を2基整備しました。試運転を経て1月22日に稼働を開始。中央井からくみ上げた118度の温泉を最大で毎分500ℓ使用します。発電した電力は、温泉をくみ上げる水中ポンプや給湯事業用の配湯ポンプで使用して



いますが、将来的には、複合型施設にも供給する予定です。徳永町長は「温泉街だからこそできることなので、さまざまな用途に使用していきたい。」と話していました。